

有機農業の取組事例（常陸太田市：木の里農園）

「有機野菜栽培」への取組（常陸太田市里美地区：布施夫妻）

県北地域に移住し、約20年、有機野菜栽培による農業経営を展開しています。

- ◆ 栽培面積：約2.5ha（大部分が畑、水田は自家消費のみ）

→全面積：有機栽培による取組

*野菜：約50品目、約250品種

- ◆ 経緯等

- ・東京都出身（非農家）、大学卒業後、帰農志塾（栃木県那須烏山）で研修
→これまで、約100人が新規就農者として独立
- ・1998年：新規就農者として独立
→夫婦（2000年結婚）で、少量多品目の有機野菜栽培を開始（直接、消費者に届ける）
- ・「木の里（このさと）農園」代表
→農薬や化学肥料を使わずに、地域の資源（例：山林がたくさんあるので、落ち葉を堆肥化）を活かす、里山循環型農業
- ・「木の里農園 有機農業ネットワーク 野良の会」代表
→（県北中山間地域）有機農家の集まりで、メンバー間の交流、新規就農者へ研修支援
- ・研修会で講師として出席
→県北農林事務所「有機農業圃場技術検討会」
 - ・平成26年：木の里農園
 - ・令和2年：里美文化センター



- ◆ 出荷は「野菜ボックス」での契約販売

→約200世帯、他に、レストラン等にも出荷

- *宅配の送料を下げるため、グループで料金交渉を行うなど、色々考えながら進めている
- *直接、消費者に届けるスタイルにより、信用を得ている（関係が構築されている）ので、有機JAS認証は必要ではないと考えている
- *今後も、今のスタイルで進める予定



□ 有機栽培のきっかけ、最近の展開等～布施氏（夫）からのコメント～

- ・大学在学中から、就職先は（サラリーマンではなく）外で（自然の中で働きたいと思っていた。（全国における）色々な情報を集めて、その中で、栃木にある有機農家への研修に惹かれるものがあった。
- ・家是非農家であったが、そこでの住み込み研修により、有機栽培の技術を学んだ。早く独立して就農の意向はあったが、研修先で農場長を任せられ、（結果そこで）3年半、有機栽培に取り組んだ。
- ・父母が（田舎暮らしに憧れ、都会を離れ）常陸太田市（当時：里美村）に移住していたこともあり、（自分が長男であることもあり）近くに住まいを探し、新規就農することにした。
- ・販路開拓にあたっては、まさに、常陸太田市内の住宅団地に飛び込んでの営業だった。有機農業の取組は、自分一人だけで何でもやらなければならない。そうした意識がなければ（ない人は）、有機農業に取り組むことができない。（誰でも簡単に出来る取組ではない）
- ・今後、国内の農産物の需要は減ると思われる。単に「有機」だから売れるわけではない。慣行栽培と比較して、味で負けるような有機野菜では売れないと思う。簡単なことではないが、本当にやる気のある新規就農の希望者ならば、応援したい。

□ 有機栽培のきっかけ、最近の展開等～布施氏（妻）からのコメント～

- ・群馬県出身（非農家）で、東京の大学を卒業後、サラリーマン生活を送っていたが、（一方で）「有機農業」に興味が出てきた。
- ・当時（東京で）開催されたシンポジウムに参加し、そこでパネラーとして出席していた布施氏と出会い、結婚するとともに就農した。
- ・有機栽培に取り組むとともに、現在（平成24年から）「茨城県女性農業士」としても活躍している。